

ぐんま教師塾の1年を振り返って(高校国語班)

高校国語班

篠原真美子 (勢多農林高校 教諭)
根岸 大輔 (桐生南高校 教諭)

「其のき」白熱した議論の続いた班別研修！



○PISA型読解力や、世界が注目しているフィンランドメソッドなど、最新の情報を題材として話し合い、授業のあり方を探り、自分の研究課題の焦点を定めることができた。

○「今、求められている教師像」「今、必要とされる授業」について、深く協議したことは、これからの教員生活を送る上で非常に有意義であった。

「其の式」熱い講師陣が語る「本気」の言葉！



○多彩な講師（学習塾理事長、アナウンサー、カウンセラー、声楽家、教育行政関係者等）の方々は、**自分を表現する言葉**をおもちだった。どなたのお話からも自らの仕事に誇りをもつ様子がうかがわれ、**懸命に歩んできた「キヤリア」**が、言葉の重みとなって伝わってきた。

○「教師は本気でなければならぬ」「生徒は鋭く、教師が本気かどうかを見抜く」という言葉が強く印象に残っている。シンプルだが核心をつく数々の言葉で、教師の盲点となる重要なことを再確認できた。

「其の参」圧巻！ 達人の授業に感動！

○達人教諭は最小限の指示しか出さないが、生徒たちは短時間で、与えられたテーマを発表できるかたちにまで作り上げていった。**教えずぎらずに生徒たちの力を最後の一滴まで振り絞らせる授業は、まさに圧巻だった。**

○生徒の知性を刺激し、自分の意見を表現させたいという教師の熱意が、生徒を確実に成長させていた。

「考える人」を育てるには…



「其の四」ぐんま教師塾で自信がついた！

○班別協議で自分の実践を客観的に分析する機会が確保され、これまでの国語表現の指導を通して得た様々なノウハウを系統的にまとめるとともに、**今後の課題を具体的に把握することができた。**

○生徒の実態を分析し、そのタイプ別に指導プランを立てたことで、**「書くこと」の指導に深く踏み込むことができた。**

担当指導主事 高校教育研究G 上原清司